



### 特集

## 山の神々と考古学

山の神様や水の神様、カマドの神様など、私たち日本人にとって、‘神様’  
というのは、常に身近にある存在と言えるのかも知れません。特定の宗教に対  
する信仰心ではなく、自然の中に神をみて、畏れ敬う<sup>おそ うやま</sup>・・・昔から日本人の信  
仰心は、四季の中にたたずむ豊かな自然と共にありました。

古く、万葉集で‘なまよみの甲斐’・・・一説によれば、‘山の並び方が素  
晴らしい甲斐の国’というような意味でうたわれた山梨県は、富士山をはじめ  
とした多くの山々に囲まれた地域です。

古来より山は人々に畏れられる存在でした。その一方で、山は人々に収穫の  
恵みを与え、山から流れくる川は、水の恵みをもたらします。そんな畏れの対  
象であり、恵みをもたらす山には昔から‘神が住む’<sup>おそ</sup>と考えられてきました。

では、山梨県においては山の神々に対する信仰としてはどのようなものが見  
られるのでしょうか。考古学の成果から探ってみましょう。

写真提供：やまなし観光推進機構

### ごじょう いわ 五丈岩から見つかったもの

遺物の所有：甲府市教育委員会 遺物の所蔵：山梨県立博物館

山梨県と長野県との境にある金峰山の頂上には、‘五  
丈岩’<sup>ごじょういわ</sup>とよばれる巨大な岩がありますが、この岩陰か  
らは刀子・火打鎌・水晶製数珠玉・土馬<sup>どば</sup>などが見つかっ  
ています。金峰山の登山口には‘金桜神社’<sup>きんざくら</sup>が鎮座し  
ていますが、この‘五丈岩’はその奥の院にあたります。  
見つけたものからは、この辺りが10世紀頃から中  
近世を通じて長い間信仰の場となっていたことを物  
語っています。



写真は、左上から時計回りに、金銅製円盤<sup>こんどうせいえんばん</sup>・‘寛永通宝’<sup>かんえいつうほう</sup>など  
の銭貨<sup>ずいしょうせいしゆすだま</sup>・水晶製数珠玉<sup>とば</sup>・土馬

▲金峰山：五丈岩から見つかったもの

## 茅ヶ岳、甲斐駒ヶ岳

# 金生遺跡 北杜市

調査機関：山梨県埋蔵文化財センター

金生遺跡は、冬至の日の出の位置が茅ヶ岳、日の入りが甲斐駒ヶ岳という場所にあります。ここで暮らしていた人たちは、おそらくは山を目印にして、一年のサイクルを把握していたのでしょう。

遺跡は縄文時代後期～晩期の遺跡ですが、配石遺構とよばれる、石を集めた祀り場の跡も見つかっていることから、いわゆる普通のムラの跡ではなく、祀りの場を中心とする祭祀的な意味合いの強い遺跡だと考えられています。石の祀り場からは焼けた人骨や石棒、土偶などが見つっていますが、特に第2号配石遺構から見つかった、中空土偶は印象的です。多くの土偶は壊されてバラバラになった姿で見つかりますが、これは少し欠けた部分はあるもののほぼ完全な姿をしており、またその姿も特徴的です。もしかすると、これは何度も使われた女神像の一種かも知れません。このような祀りの場をもつムラだからこそ、周囲に神々の山を見渡すことができるこの場所が選ばれたのではないのでしょうか？



金生遺跡から山々をのぞむ



石を集めてつくられた配石遺構



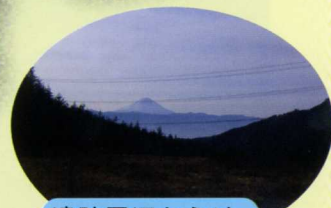
見つかった中空土偶



金生遺跡

金桜神社奥社地遺跡

吉田口登山道  
行者堂跡  
関連遺跡



遺跡周辺からは  
富士山も見えます

## 金峰山

# 金桜神社奥社地遺跡 山梨市

調査機関：帝京大学山梨文化財研究所 写真提供：山梨市教育委員会

金峰山は、山梨側では‘きんぷさん’長野側では‘きんぼうさん’、と呼ばれており、蔵王権現が祀られる山です。金峰山信仰の中で中心的な存在であるのが牧丘町杣口にある金桜神社ですが、この奥社地一帯に広がるのがここで紹介する遺跡です。

調査の結果、仏堂と思われる建物などが見つっています。昭和37年に甲州市勝沼町柏尾から見つかった、平安時代おわり頃の経筒には‘米沢寺の千手観音の前で写経した経文を、柏尾山寺（大善寺）まで運んで埋納した’ことが記されていますが、そこに記される米沢寺はこれまではっきりした所在がわからず、いわば幻の寺でした。しかし、杣口に現存する「米沢寺雲峯寺」の寺院名などから、もしかするとこの奥



山の中に残る石段



調査の様子

社地に‘米沢寺’があったのかも知れないとも言われてきました。調査の結果、見つかった建物跡には仏像を安置する須弥壇がつけられていることから、これが‘千手観音’を納めたお堂の跡ではないか、とも考えられています。また寺

には、武田氏滅亡後、寺院が織田勢の焼き討ちにあった、という言い伝えもありますが、発掘した限りでは、火災の痕跡は見つからず、これは伝承とは異なったものとなっています。金桜神社裏の山には今でもひっそりと寺の跡や神社の跡が眠っています。

富士山

ぎょう じゃ どう あと

# 行者堂跡 (二合目) 富士吉田市

調査機関：山梨県埋蔵文化財センター

山頂

せんげんたいしやおくみや  
浅間大社奥宮

九合目

くすし  
久須志神社

八合目

亀岩

七合目

花小屋

六合目

穴小屋

きょうがたけ  
経ヶ嶽

五合目

こみたけしや  
小御嶽社

ごさいし  
御座石

四合目

大黒小屋

三合目

三軒茶屋

二合目

ふじ おむろ  
富士御室  
浅間神社

ぎょうじゃどう  
行者堂

一合目

すずはらしや  
鈴原社

うまがえし  
馬返

開

北口本宮  
富士浅間神社



見つかった石列 (奥は富士御室浅間神社)



図面を作成している様子



見つかった石垣

行者堂跡は、富士山二合目の富士御室浅間神社の境内地にあったお堂で、神社拝殿の前を通りすぎてすぐの現登山道の右脇にあったものと考えられています。お堂は天文 24 (1555) 年に造られたという記録がありますが、江戸時代のおわりにはすでになくなっていました。この行者堂は甲府盆地から富士山に至る登山道の拠点施設で、富士山開山の祖である‘役行者’像が祀られていたと言われています。

発掘調査の結果、現登山道に沿う形で全長 7.4m の石列が姿を見せました。この石列の周辺からは中近世の陶磁器類や土器をはじめ古銭類、釘などが多く見つかっています。また行者堂があった場所の土留用と考えられる石垣も見つかりました。これらから考えると、江戸時代のはじめには、この場所に信仰に関わる施設があったものと思われる。

富士山

# 吉田口登山道関連遺跡 (馬返～一合目)

調査機関・写真提供：富士吉田市教育委員会

富士吉田市

吉田口登山道は、江戸時代には富士講の参詣のための登山道として栄え、多くの人々がここから富士山頂を目指しました。

この調査では、馬返～一合目までの発掘調査が行われ、かつての登山道などが姿をあらわしました。‘馬返’とはその言葉通り、道が険しくなり、乗ってきた馬を返して徒歩に変わる地点のことですが、ここからは往時を偲ばせる石畳が姿をあらわしました。また、この石畳近くの鳥居周辺からは、手を合わせる猿の像が見つかっています。富士山では猿は‘神の使い’とされ、絵札 (信仰の対象を描いた札) などにも多く描かれています。



石畳の調査



猿の像



一石経塚

山小屋跡の調査



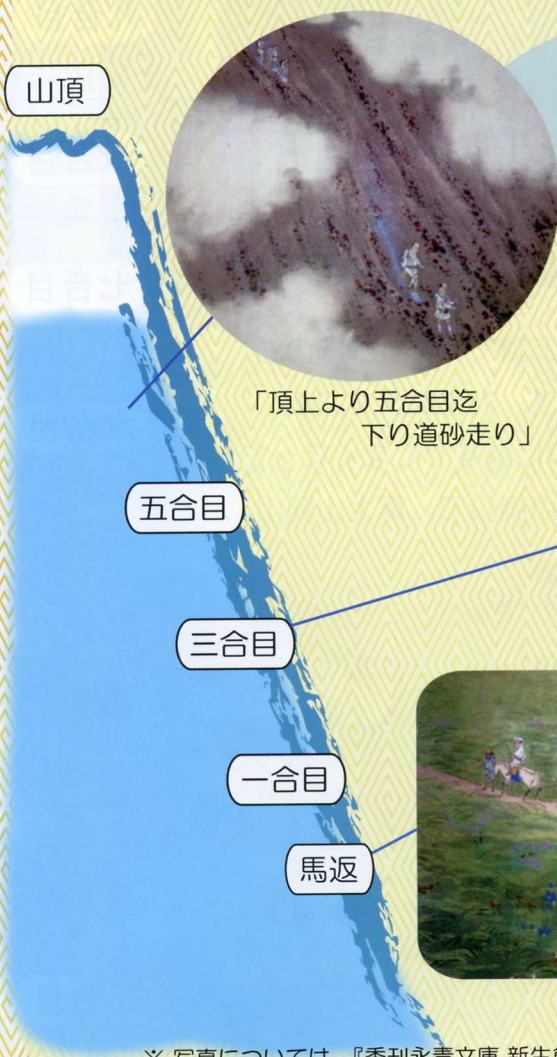
さらに一合目鈴原社わきの山小屋跡の調査では、小石に法華経の経典を墨で記した‘一石経塚’が見つかっています。これは、願をかけたたり、また豊作を祈って造られたもので、江戸時代の終わり頃に流行しました。このように山中からも様々な信仰の痕跡が見つかっています。



猿の描かれた絵札

# 江戸時代の登山風景

## 永青文庫所蔵の～『富士登山図巻』～



「頂上より五合目迄  
下り道砂走り」

←「砂走り」には、降りだしたら止まらない、下り道の様子が描かれています。。



「三合目邊」



「吉田口之裾野」部分

左の絵図は、肥後熊本・細川家の御抱え絵師であった「杉谷行直」によって描かれたものと考えられています。行直は自ら登山して、富士山の雪解け水でこの図巻の下絵をしたためたようですが、ここには富士登山の様子がよく現わされており、登山を迫体験できるようです。

「三合目邊」では急峻な登山道が描かれていますが現在の登山道が大きく迂回する道であるのとは対照的です。古くはこのような最短距離で登るような急な道だったんですね。

一方の「吉田口之裾野」では花の咲くのどかな野辺を馬で登っていく様子が描かれています。

※ 写真については、『季刊永青文庫 新生創刊号』・『同No.63』・『同No.64』より転載

### 埋文センターからのお知らせ

秋に向けて、様々なイベントを開催します。

上半期遺跡調査発表会 日時：平成21年10月24日(土)  
場所：風土記の丘研修センター

詳しくはHP  
をご覧ください！

甲府城のイベント 日時：平成21年10月予定  
内容：‘かぐらさん’で石を動かしてみよう！

などなど。

### 編集後記

セミの声も夏を惜しむかのように聞こえる季節となりました。今回は「山の神々と考古学」と題して、山岳信仰に関わる遺跡を紹介しました。埋蔵文化財センターでは、今年から山岳信仰遺跡分布調査を開始し、今年度からの3年間では、富士山を中心とする山岳信仰のあり方について調べていく予定です。  
‘日本一の山’富士山に関する信仰の形をはじめとし、山梨県内の信仰の山に結びついた遺跡について明らかにできれば・・・と思っています。



山梨県埋蔵文化財センター  
埋文やまなし 第33号  
発行日：2009年8月21日  
編集：山梨県埋蔵文化財センター  
発行：〒400-1508  
山梨県甲府市下曾根町923  
Tel 055-266-3016  
印刷：(株)峡南堂印刷所